

今昔

子供の健康を願う親心稚児参り

この絵は、尾張名所図会に記載されている江戸時代の児宮参りの図、綿八幡社、平手政秀碑など名古屋城北に位置する西志賀村の様子です。

児宮は、綿神社の別社で勧請の時期は不明です。当時は、綿神社の東にありましたが明治7年に、現在の地に移され、児子宮と呼ばれています。

図会には、児宮の神事(例祭は3月14日に赤丸神事が行われた)に着飾って参拝する親子や多くの人が参拝する様子が描かれています。

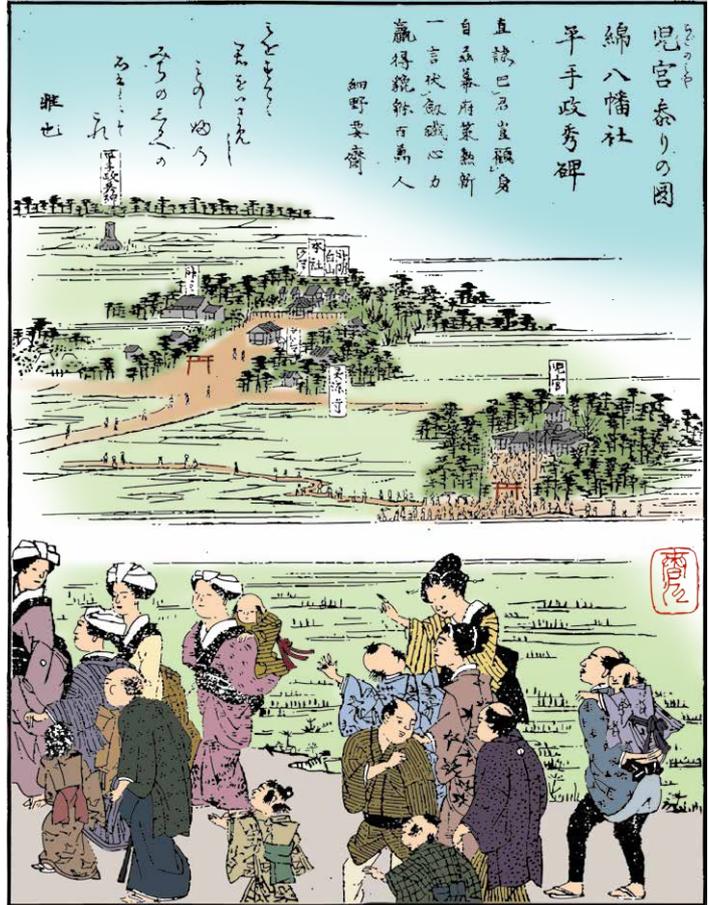
児宮は、医学が発達していない時代には、子供の守神と言われており、子供の病を心配する人々に慕われてきました。

綿八幡社は、「延喜式」の神名帳に載る由緒ある神社で、祭神として神功皇后、応神天皇、玉依比売命が祀られています。綿神社は、東海以東に稲作をひろめた部族のゆかりの地である九州の「志賀」を偲んで、地名も同じくし、神社も創建されました。

神社名にある綿とは、海のかり字で、海童神を祀るのが本来であるが、中世に八幡と使用したので、現在の祭神となっています。

西志賀村が、かつて海辺であった痕跡はハマグリの貝殻などが出土し貝塚があることや、神社名からも推測されます。

織田信長は若いころ行状が悪く、その補佐役であった平手政秀が一命をもっていさめた逸話



※現在の地の住所と現況写真の撮影地は、資料に基づき推定したものです。右の絵は原本を一部加工、着色しています。

が残されています。平手政秀の邸が現在の志賀公園の地にあり一帯を領地としていたことから、1802年、邸跡に政秀を顕彰する碑が建立されました。

この一帯は、市街化が進展し、往時の姿を思い浮かべることはできませんが、それぞれの施設は現在も残されています。



児宮 (児子社)



綿神社



平手政秀碑 (志賀公園内)

◆関連資料 * ()内はまちづくりライブラリーの請求記号です

「尾張名所図会後編3」岡田啓・野口道直/著 愛知県郷土資料刊行会 (Sc-ア)
「北区の歴史」愛知県郷土資料刊行会/編 (Sc-ア)

「北区歴史と文化探索トリップ」沢井鈴一、伊藤正博、北本日出夫/著
発行名古屋北ライオンズクラブ (Sc-サ)